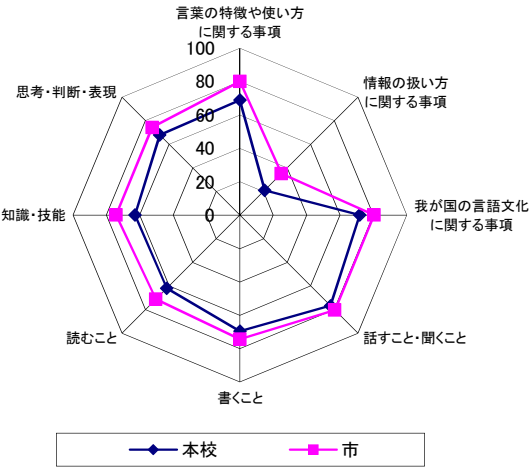


宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.9	80.0	76.5
	情報の扱い方にに関する事項	21.0	35.2	29.3
	我が国の言語文化にに関する事項	71.7	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	76.8	80.4	77.7
	書くこと	69.6	74.3	62.9
	読むこと	62.0	71.2	65.8
観点別	知識・技能	62.9	74.1	68.4
	思考・判断・表現	68.0	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

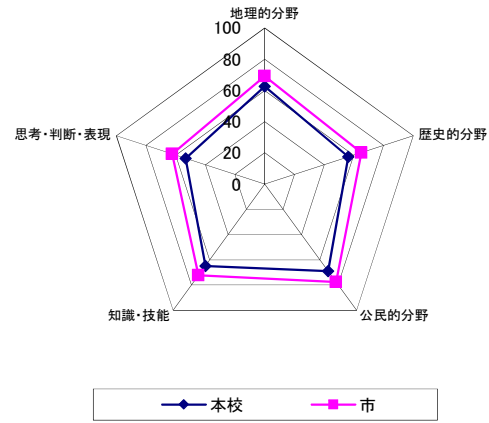
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○第3学年までに学習した漢字を正しく選んでいる問題で正答率100%のものがあつた。 ●全体の正答率は68.9%であり、市の平均より11.1%下回っていた。 ●小学校までに学習した漢字を正しく書く問題の正答率が市の平均より下回っていた。	・漢字の理解を高めていくために、授業中に漢字の書き取りの時間を作ることで、生徒の漢字の定着率を図っていくことが必要である。 ・家庭学習において漢字の書き取りを行い、漢字の力を伸ばしていくことが必要である。
情報の扱い方にに関する事項	●全体の正答率は21.0%であり、市の平均より14.2%下回っていた。	・情報を取捨選択して、論理的な展開を理解させたり、自分の考えがわかりやすく伝わる文章を作成させていくことが必要である。
我が国の言語文化にに関する事項	○歴史的仮名遣いの問題や現代語訳を手掛かりにして正答を導く問題の正答率は、参考値より上回っていた。 ●市の正答率80.4%に対して、8.7ポイント下回っている。	・漢字の理解を高めていくために、授業中に漢字の書き取りの時間を作る必要がある。また、用言の種類や、敬語などの文法事項に対して苦手意識があるので、授業の中で取り上げていく必要がある。 ・授業における語彙力を増やしていくために、言語活動の工夫や、グループ活動で発言の機会を増やしていく必要がある。
話すこと・聞くこと	○進行の仕方を工夫して話し合っている問題の正答率は参考値より0.6ポイント上回っている。 ●市の正答率80.4%に対して、3.7ポイント下回っている。	・実生活に結びつくような言語活動を積極的に取り入れることで授業中に学んだことを普段の生活でも意識させるなどして、「話すこと・聞くこと」の力の定着を図る。 ・「聞き方テスト」やノート指導を通して、問題文を意識して聞いたり、重要なポイントをメモしたりする習慣を身に付けさせるとともに、実際にスピーチを行うことで実践力を身に付けさせていく。
書くこと	○書くことすべての問題の正答率が参考値より上回っている。 ●市の正答率74.3%に対して、4.7ポイント下回っている。	・授業中の記述式問題や作文において、「書く」ことの指導を継続していく必要がある。さらに、文章構成の作業も授業の中で取り入れていきたい。 ・全ての学級においてスタンダードダイアリーを毎日書くことにより、「書く」ことを習慣化させる体制を構築する。
読むこと	○文章を批判的に読みながら、登場人物の行動の意味について考える問題の正答率は参考値を上回った。 ●市の正答率71.2%に対して、9.2ポイント下回っている。	・論説文を読むことに関しては、どのような話なのか理解させ、そのうえで興味・関心をもたせるような指導を授業の中で進めていく必要がある。 ・文学作品については、登場人物の細かい心情描写をとらえることに苦手意識が見られるので、教科書の文章だけではなく、発展的な資料も読み取るような言語活動を取り入れていきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.6	69.2	61.5
	歴史的分野	56.3	65.1	59.1
	公民的分野	69.1	77.6	71.6
観点別	知識・技能	64.8	72.2	66.8
	思考・判断・表現	53.4	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

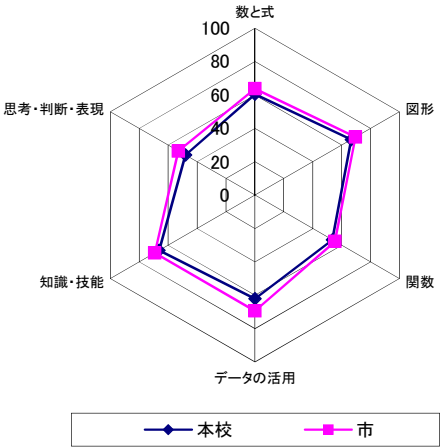
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○「世界の地域区分」に関する知識・理解の出題において、市の平均正答率を上回った。 ○「九州地方の農業・工業」「九州・近畿地方と世界との結び付き」に関する思考・判断・表現に関する出題において、市の平均正答率を上回った。 ●地理的分野全体としては、市の平均正答率72.2%に対して、6.6ポイント下回った。 ●複数の資料を関連づけて考察し、表現する出題において、市の平均正答率を9.8ポイント下回った。	・授業において、写真や映像などを用いる場面を今まで以上に設け、地域的特色を視覚的に捉えることができるようにしていく。 ・グラフ、統計、地図など複数の資料から地域的特色を読み取ったり、他の地域との相違点を考えるグループ学習を取り入れていく。 ・地理的分野に関する専門用語を確実に習得させるために、AIDリルを活用していく。
歴史的分野	○「貝塚」や「大王」に関する知識・理解の出題において、市の平均正答率と同程度の正答率であった。 ●歴史的分野全体としては、市の平均正答率65.1%に対して、8.8ポイント下回った。 ●「江戸幕府の大名統制」に関する出題など、思考・判断・表現に関する出題について、概ね市の平均正答率を下回った。	・個々の史実、個々の人物としての捉え方で留まらず、時間の流れの中で捉えることができるように、年表や、歴史を題材にした特集番組の映像などを授業の中に取り入れていく場面を増やしていく。 ・個々の史実について、「なぜ」「別の方法は」「自分が当事者だったら」と多面的・多角的に考えたり、発表し合ったりする場面を授業の中で増やしていく。 ・歴史的分野に関する専門用語を確実に習得させるために、AIDリルを活用していく。
公民的分野	○「私たちの生活と現代社会」に関する思考・判断・表現に関する出題において、市の平均正答率を上回った。 ●公民的分野全体としては、市の平均正答率77.6%に対して、8.5ポイント下回った。 ●「人間の尊重と日本国憲法」に関する思考・判断・表現に関する出題において、市の平均正答率を19.7ポイント下回った。	・授業の導入場面などで、テレビや新聞、インターネット上で取り上げられている時事問題を数多く取り上げ、公民的分野の学習に対する興味・関心を高めていく機会を更に増やしていく。 ・日本国憲法など、さまざまな資料を基に思考・判断・表現することに課題を残したことから、授業の振り返りの時間を活用して、文章で表現したり、まとめたことを発表したりする機会を増やしていく。 ・公民的分野に関する専門用語を確実に習得させるために、AIDリルを活用していく。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	60.4	63.7	61.5
	図形	66.7	69.6	61.1
	関数	53.6	55.4	43.5
	データの活用	62.1	69.3	64.2
観点別	知識・技能	66.3	69.2	65.3
	思考・判断・表現	48.1	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

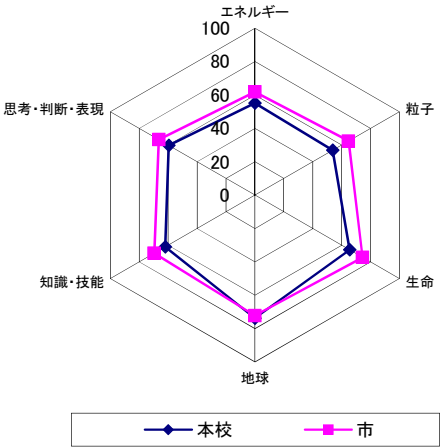
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○1累乗を含む正負の数の除法の問題では、市平均より13.9ポイント上回った。 ○乗法の公式を使って式を簡単にする問題では、市平均より5.1ポイント上回った。 ●与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式する問題では、市平均よりも9.4ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的・基本的な確認問題など、今年度実施してきたことが少しずつ成果となった。今後も継続して繰り返し取り組ませることで、確かな学力を身に付けさせたい。 ・かがやきルームやT・Tの指導体制、習熟度別学習をより充実させ、生徒の苦手意識の改善を図る。
図形	○多角形の外角の和はつねに360°であることを理解を確認する問題では、市平均よりも7ポイント上回った。 ○証明の必要性和意味について理解を確認する問題では、市平均よりも6ポイント上回った。 ●示された内容の根拠となる図形の性質を問う問題では、市平均よりも9.6ポイント下回った。 ●三角形の合同条件について理解を確認する問題では、市平均よりも9.8ポイント下回った。	・1年生の平面図形や空間図形の単元の復習を、継続して繰り返し取り組ませることで、学習内容の定着を図る。 ・2年生で学習する三角形の合同証明や3年生で学習する相似な図形について復習し、学習内容の定着を図る。 ・図形についての定義や定理について、図と関連させて学習するよう指導にあたる。
関数	○座標軸上に頂点をもつ三角形の面積を求める問題では、市の平均より8ポイント上回った。 ○グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差がどのような数量を表しているかを判断する問題では、市の平均より5.4ポイント上回った。 ●関数 $y=ax^2$ における変化の割合を求める問題では、市の平均よりも7.6ポイント下回った。 ●式やグラフを用いて、求める方法を説明する問題では、市の平均よりも9.1ポイント下回った。	・生徒の中でも苦手意識の高い「関数」の分野において、1、2年生の内容の復習を徹底して行っていく。 ・比例・反比例、一次関数、関数 $y=ax^2$ において、一般式の表し方の指導を重点的に行うとともに、表・式・グラフの関連を生徒に理解させる。 ・グループや任意小集団など、学習形態を工夫しながら発展的な問題にも取り組ませることで、活用問題へ対応できるようにする。
データの活用	○5個の球から2個を取り出すときの確率を求める問題では、市平均と同等の結果となった。 ○ヒストグラムを読み取り、利用者の人数を求める問題では、正答率が7割を超え、市平均と同等の結果となった。 ●資料の活用の領域全体では市平均より7.2ポイント下回っており、差が大きい。 ●箱ひげ図と四分位範囲について理解を確認する問題では、市の平均に比べ9.5ポイント下回った。	・1年生の資料の分析と活用についてヒストグラムや度数分布表を踏まえながら、用語の確認など復習を行っていく。 ・2つのさいころを投げる問題、硬貨を投げる問題、あたりくじを引く問題など、確率についてのさまざまな事象についてもう一度指導を行い、内容の定着を図る。また、新たな学習内容の箱ひげ図についても復習を取り入れていく。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	55.1	61.8	60.6
	粒子	53.8	64.8	54.0
	生命	65.6	74.5	66.6
	地球	73.7	72.1	63.0
観点別	知識・技能	62.0	69.6	63.4
	思考・判断・表現	59.6	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

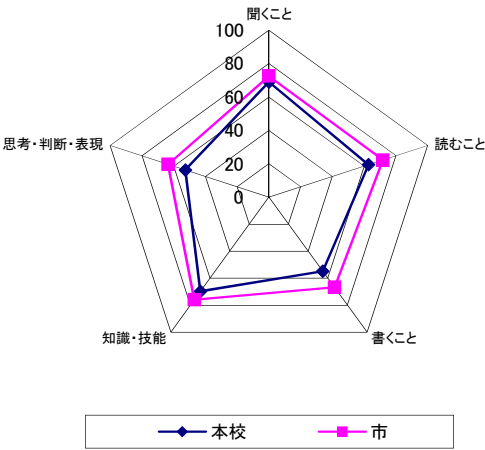
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「鏡で2回反射した光」についての問題では市の平均正答率を8.0ポイント上回った。 ●エネルギー分野全体としては市の平均正答率61.8%に対して6.7ポイント下回った。	・実験で確かめた事実は正答率が高いので、実験を多く行っていく。しかし物理的な事象では実験が向かない内容もあるのでシミュレーションを取り入れていく。 ・教科書的な知識は定着していない傾向がみられる。経験的知識として定着できる方法を考えて取り組む。 ・全体として大きな差が現れる前に学習事項が定着するように自学ノートの取り組みを継続する。
粒子	○「アンモニア水が水上置換法で集められない理由」についての問題では全国正答率を27.9ポイント上回った。 ●粒子分野全体としては市の平均正答率64.8%に対して11.0ポイント下回った。	・実験で確かめた事実は正答率が高いので、実験を多く行っていく。 ・この領域でも教科書的な知識は定着していない傾向がみられる。反復学習の必要性があるので、AIDリルを活用していく。
生命	○「細胞分裂の過程」についての問題では市の平均正答率を0.9ポイント上回った。 ●生命分野全体としては市の平均正答率74.5%に対して8.9ポイント下回った。	・図形的にとらえることができる問題では正答率を上げることができるので、授業では図形的なとらえ方の授業を継続していく。 ・学習してから時間がたっている問題では正答率が下がっていく傾向があるので、知識の定着のための手立てが必要と思われる。実力テストを実施したら、しっかり振り返りを行って、知識の定着を支えていく。
地球	○地球分野全体としては市の平均正答率72.1%を1.6ポイント上回った。 ●「地震の発生時刻」についての問題では市の平均正答率を9.1ポイント下回った。	・図形的な理解による指導では効果が出ているので、継続して取り組んでいく。 ・計算による数量的な問題に対しては苦手意識があり正答率が低いので、今後は重点的に計算問題に取り組む授業をことあるごとに実施していく。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.0	72.5	70.5
	読むこと	62.8	71.9	66.9
	書くこと	54.9	66.8	59.7
観点別	知識・技能	69.8	76.0	73.9
	思考・判断・表現	52.7	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○通学手段を尋ねる問題や、対話文で適切に応答しているかを問う問題では市の平均とほぼ同ポイントであった。 ○英文を聞きその内容に合う絵を選ぶ問題では、市の平均より5.1ポイント正答率が高かった。 ●全体としては、市の平均より3.5ポイント低い正答率であった。	・正確にメモを取りながら聞くように、繰り返し指導にあたる。 ・ナチュラルスピードの文が聞き取れるように、聞き取りの回数を増やすようにする。
読むこと	○語法理解の現在完了の文では、市の平均とほぼ同ポイントであった。 ●全体としては、市の平均より9.1ポイント低い正答率であった。	・今年度は3文～5文の文章を短時間で読み、概要をつかむ指導をしてきたが、まだ効果が出てこない。継続して指導する必要がある。 ・長文を苦手とする生徒が多いため、短文から長文へと段階を踏んだ指導に取り組むことが重要である。
書くこと	○単語の並べ替えによる英作文では、市の平均とあまり大差ないポイントとなった。 ●全体としては市の平均から11.9ポイント低い正答率であった。 ●3文以上の英作文では「理由」「説明」「テーマに沿って書く問題」で、市の平均より10ポイント以上正答率が低かった。	・単語の練習や文を書く練習を積み重ねたが、効果が見えてこない。生徒が取り組みやすいような工夫が必要である。 ・書くことに慣れるため、定期的にテーマに沿った文を書く機会を設けるようにする。

宇都宮市立上河内中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・確かな学力を身に付け、主体的に考え表現できる生徒を育成する。	・確かな学力を身に付けるために、家庭学習ノートを活用し、家庭学習の習慣化を図る。	・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」の肯定割合は、1年生は61.2%で市を0.5ポイント上回った。2年生は、65.8%で市を10.6ポイント上回った。3年生は66.2%で市を1.1ポイント下回った。 ・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」の肯定割合は、1年生が53.7%、2年生が50.6%、3年生が36.6%で、市を1年生は4.2ポイント、2年生は8.2ポイント上回った。3年生は、9.1ポイント下回った。
	・「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の実現」に向け、思考力を深めるための「書く時間」を重視した授業の展開	・「思考・判断・表現」に関わる問題の校内正答率において、国語6.3ポイント、社会8.9ポイント、数学4.8ポイント、理科6.9ポイント、英語10.9ポイント、それぞれ市の平均を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。」は、昨年度すべての学年において市の平均を下回っていたが、今年度は1,2年生において市の平均を上回った。学級担任や各教科担任が家庭学習の適切な取組内容について繰り返し指導してきた結果と言える。一方で、平日の学習時間が30分以下の生徒が、1年生で20.9%、2年生で26.6%と、それぞれ学年全体の2割以上おり、課題を残したと言える。次年度は家庭学習の内容の充実を図るとともに、学習時間の確保についても指導していきたい。

・国語の「書くこと」において、3年生では市の平均を4.7ポイント下回った。一方で、2年生の県の調査において、県・市の正答率をやや上回った。特に「自分の考えを明確にして書く」は7.3ポイント上回る結果となった。作文指導や「短文を書く」指導は、地域学校園での重点目標になっていることもあり、特に力を入れて指導している単元である。引き続きこれらを指導していくとともに、各教科でも「振り返り」の場面において、考えの変容やこれまでの学習との関連等を自分の言葉でノートに書かせる活動を充実させていき、主体的な学習に取り組む態度の育成を図りたい。